



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成15年12月調査分)

景気の現状判断DI

	平成15年9月	平成15年12月	前回調査比
茨城県	45.6	50.1	+4.5
県北地域	39.2	48.3	+9.1
県央地域	44.6	50.9	+6.3
鹿行地域	41.7	46.1	+4.4
県南地域	47.7	56.1	+8.4
県西地域	55.0	49.1	-5.9

景気の先行き判断DI

	平成15年9月	平成15年12月	前回調査比
茨城県	50.1	47.8	-2.3
県北地域	44.8	43.2	-1.6
県央地域	49.1	48.2	-0.9
鹿行地域	51.3	49.6	-1.7
県南地域	51.8	50.0	-1.8
県西地域	53.6	48.2	-5.4

平成16年1月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/joho/index.htm>

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
（1）景気の現状判断D I	4
（2）景気の先行き判断D I	5
2 地域別の動向	6
（1）景気の現状判断D I	6
（2）景気の先行き判断D I	8
3 回答率	11
景気の判断理由	12
1 景気の現状判断理由	12
2 景気の先行き判断理由	18
3 その他の意見	23

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業等			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成15年12月調査の調査期間は平成15年12月8日から26日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「良くなっている」・「やや良くなっている」の回答構成比が増加したため、4.5ポイント増の50.1となった。横言いを表す50を上回ったのは平成14年12月に調査を開始して以来初めてのことである。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

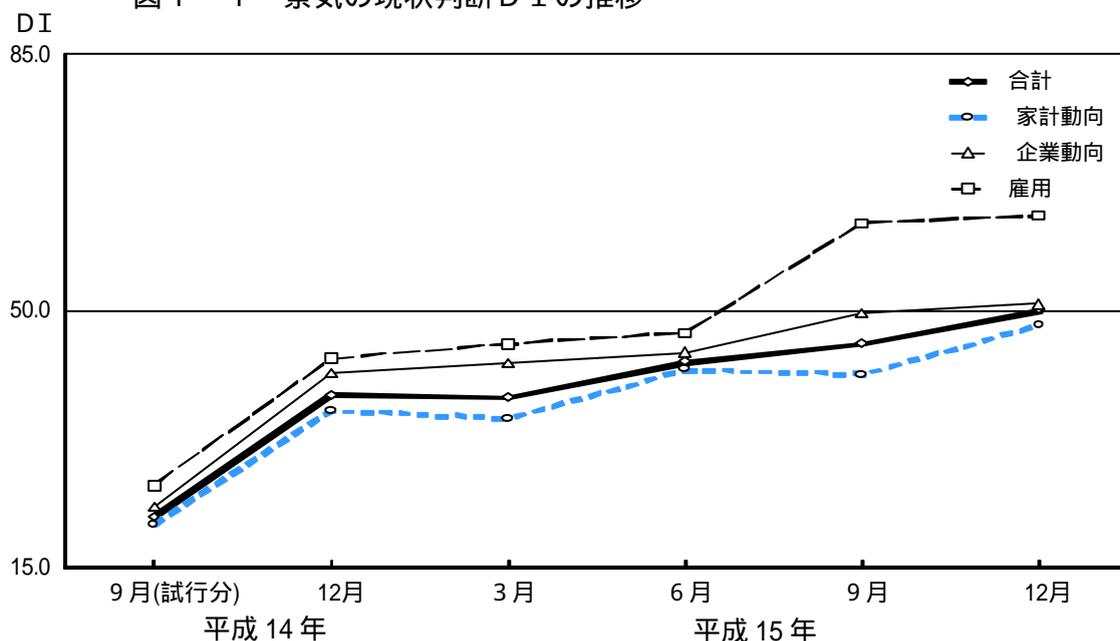
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		38.5	38.2	43.0	45.6	50.1
家計動向関連	家計動向関連	36.3	35.1	41.9	41.2	47.9
	小売関連	30.4	34.0	43.0	41.3	47.1
	飲食関連	44.4	31.9	34.7	42.5	43.8
	サービス関連	40.9	35.8	42.3	38.0	49.1
	住宅関連	10.0	39.3	44.4	66.7	52.8
企業動向関連	企業動向関連	41.5	42.8	44.3	49.7	50.9
	農林水産業	43.8	46.4	53.6	50.0	34.4
	製造業	46.6	44.0	45.1	49.5	56.0
	非製造業	33.3	39.8	40.8	50.0	47.4
雇用関連		43.5	45.5	47.0	62.0	63.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成14年12月	3.3%	14.7%	32.6%	31.5%	17.9%
平成15年3月	2.2%	11.8%	36.2%	36.2%	13.7%
平成15年6月	1.4%	18.6%	40.7%	29.3%	10.0%
平成15年9月	1.8%	21.0%	45.2%	21.7%	10.3%
平成15年12月	3.8%	27.2%	41.8%	19.9%	7.3%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断 D I

3か月先の景気の先行き判断 D I は「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、2.3ポイント減の47.8となり、横這いを表す 50 を下回った。業種別にみても、企業動向関連 D I 及び雇用関連 D I は9月調査分に引続き、横這いを表す 50 を上回ったが、家計動向関連 D I は横這いを表す 50 を下回り、9月調査分を下回った。

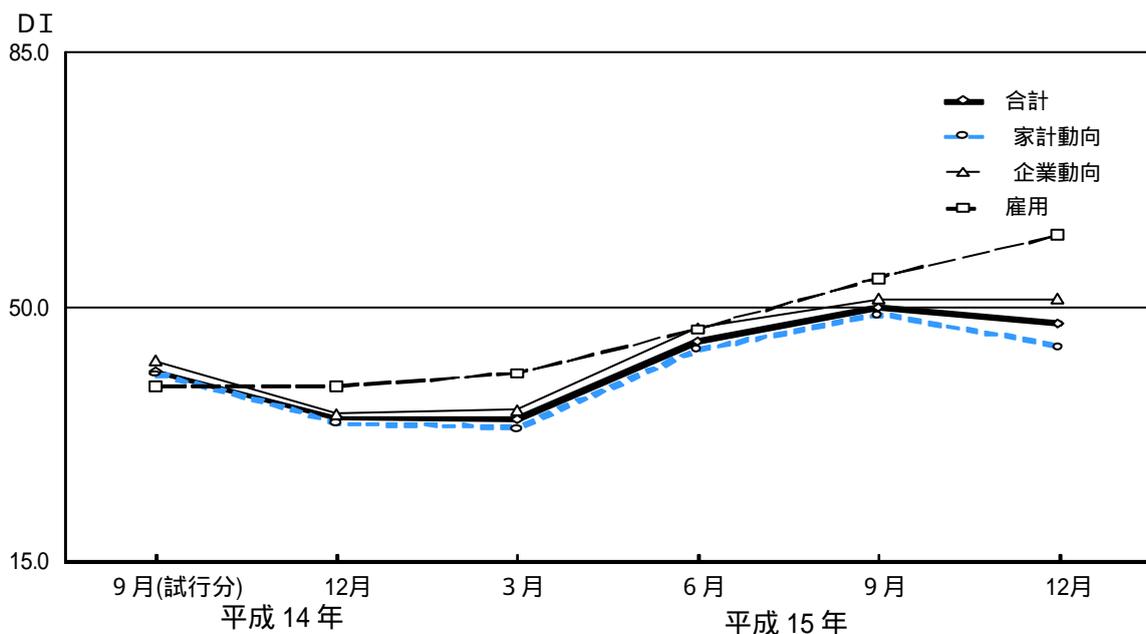
表 1 - 3 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		34.9	34.8	45.4	50.1	47.8
家計動向関連		34.1	33.4	44.2	49.0	44.6
小売関連		32.7	33.2	41.4	48.0	47.5
飲食関連		34.7	33.3	44.4	50.0	42.5
サービス関連		35.6	33.9	45.4	49.4	41.9
住宅関連		25.0	28.6	52.8	50.0	50.0
企業動向関連		35.4	35.9	47.3	51.2	51.2
農林水産業		40.6	39.3	57.1	56.3	50.0
製造業		37.5	35.3	47.3	47.8	52.7
非製造業		30.8	36.1	45.0	55.2	49.1
雇用関連		39.1	40.9	47.0	54.0	60.0

表 1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成14年12月	1.1%	7.3%	40.3%	32.6%	18.7%
平成15年3月	0.4%	10.0%	35.8%	32.6%	17.7%
平成15年6月	0.4%	16.1%	54.3%	23.2%	6.1%
平成15年9月	1.4%	28.1%	47.3%	15.7%	7.5%
平成15年12月	2.1%	21.3%	49.1%	20.9%	6.6%

図 1 - 2 景気の先行き判断 D I の推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断D I

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは 48.3 であり、9月調査分と比べて9.1ポイント上回り、上昇幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが9月調査分を上回った。

表2 - 1 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		30.3	30.1	40.8	39.2	48.3
家計動向関連		28.6	24.3	40.1	33.3	43.9
企業動向関連		30.9	39.1	42.6	45.6	54.4
雇用関連		40.0	43.8	40.0	60.0	60.0

表2 - 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年12月	0.0%	8.8%	33.3%	28.1%	29.8%
平成15年 3月	1.9%	1.9%	37.0%	33.3%	25.9%
平成15年 6月	3.3%	11.7%	43.3%	28.3%	13.3%
平成15年 9月	1.7%	10.3%	46.6%	25.9%	15.5%
平成15年12月	1.7%	30.5%	40.7%	13.6%	13.6%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは50.9であり、9月調査分と比べて6.3ポイント上回り、横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが9月調査分を上回った。

表2 - 3 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		40.6	39.1	40.5	44.6	50.9
家計動向関連		40.3	36.1	38.6	41.7	49.3
企業動向関連		42.2	46.7	43.3	48.3	50.0
雇用関連		37.5	37.5	45.0	55.0	65.0

表2 - 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年12月	3.6%	17.9%	30.4%	33.9%	14.3%
平成15年 3月	3.6%	12.7%	34.5%	34.5%	14.5%
平成15年 6月	0.0%	14.5%	43.6%	30.9%	10.9%
平成15年 9月	1.8%	17.9%	46.4%	25.0%	8.9%
平成15年12月	1.8%	24.6%	54.4%	14.0%	5.3%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは46.1であり、9月調査分と比べて4.4ポイント上回ったが、D I値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが9月調査分を上回った。

表2-5 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		38.4	39.5	41.8	41.7	46.1
家計動向関連		33.3	40.3	38.6	38.9	44.6
企業動向関連		48.4	37.5	50.0	45.3	48.4
雇用関連		40.0	40.0	40.0	50.0	50.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年12月	3.7%	13.0%	37.0%	25.9%	20.4%
平成15年3月	2.0%	10.0%	40.0%	40.0%	8.0%
平成15年6月	1.8%	16.4%	41.8%	27.3%	12.7%
平成15年9月	0.0%	15.8%	43.9%	31.6%	8.8%
平成15年12月	5.2%	19.0%	39.7%	27.6%	8.6%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは56.1であり、9月調査分と比べて8.4ポイント上回り、横這いを表す50を上回った。また、D I値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが9月調査分を上回った。

表2-7 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		40.1	40.7	45.5	47.7	56.1
家計動向関連		40.2	40.4	50.8	43.9	55.0
企業動向関連		42.2	40.6	33.8	47.1	50.0
雇用関連		31.3	43.8	50.0	75.0	85.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年12月	7.5%	13.2%	28.3%	34.0%	17.0%
平成15年3月	3.7%	16.7%	29.6%	38.9%	11.1%
平成15年6月	1.8%	23.6%	36.4%	30.9%	7.3%
平成15年9月	3.6%	25.5%	41.8%	16.4%	12.7%
平成15年12月	8.8%	33.3%	35.1%	19.3%	3.5%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは49.1であり、9月調査分と比べて5.9ポイント下回った。D I値が9月調査分を下回ったのは県西地域のみである。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが9月調査分を下回った。

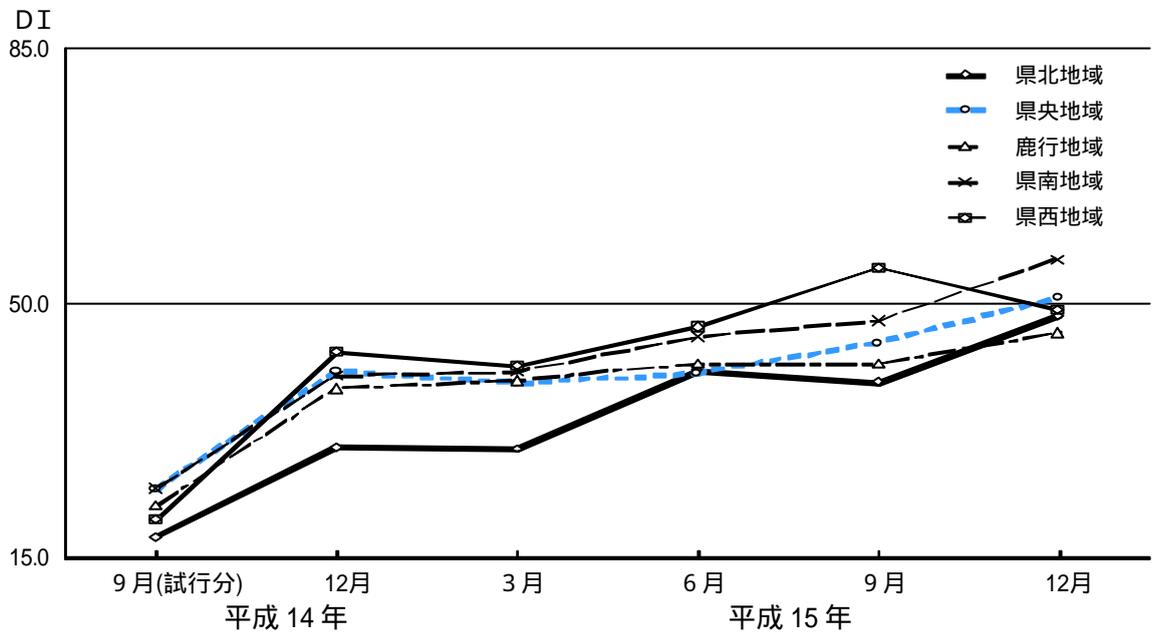
表 2 - 9 景気の現状判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年	平成 1 5 年			
		1 2 月	3 月	6 月	9 月	1 2 月
合 計		43.4	41.4	46.8	55.0	49.1
家計動向関連		39.5	34.6	41.9	49.2	47.0
企業動向関連		44.1	48.7	51.3	61.1	51.4
雇用関連		65.0	60.0	60.0	70.0	55.0

表 2 - 1 0 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 1 2 月	1.9%	20.8%	34.0%	35.8%	7.5%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	17.2%	39.7%	34.5%	8.6%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	27.3%	38.2%	29.1%	5.5%
平成 1 5 年 9 月	1.8%	36.4%	47.3%	9.1%	5.5%
平成 1 5 年 1 2 月	1.8%	28.6%	39.3%	25.0%	5.4%

図 2 - 1 地域別現状判断 D I の推移



(2) 景気の先行き判断 D I

県北地域

3 か月先の景気の先行き判断 D I は 43.2 であり、9 月調査分と比べて 1.6 ポイント下回り、D I 値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、企業動向関連 D I 及び雇用関連 D I が 9 月調査分を上回ったが、家計動向関連 D I が 9 月調査分を下回った。

表 2 - 1 1 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年	平成 1 5 年			
		1 2 月	3 月	6 月	9 月	1 2 月
合 計		31.6	28.7	42.9	44.8	43.2
家計動向関連		27.1	25.0	38.8	41.7	35.8
企業動向関連		38.2	35.9	51.5	48.5	54.4
雇用関連		40.0	31.3	45.0	55.0	60.0

表 2 - 1 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 1 2 月	1.8%	1.8%	38.6%	36.8%	21.1%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	3.7%	33.3%	37.0%	25.9%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	13.3%	53.3%	25.0%	8.3%
平成 1 5 年 9 月	0.0%	25.9%	44.8%	12.1%	17.2%
平成 1 5 年 1 2 月	1.7%	16.9%	47.5%	20.3%	13.6%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは 48.2 であり、9月調査分と比べて0.9ポイント下回った。業種別にみても、企業動向関連D Iが9月調査分を上回ったが、家計動向関連D Iが9月調査分を下回った。

表 2 - 1 3 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成 1 4 年 1 2 月	平成 1 5 年 3 月	平成 1 5 年 6 月	平成 1 5 年 9 月	平成 1 5 年 1 2 月
合 計		38.8	36.8	42.7	49.1	48.2
家計動向関連		39.6	35.4	40.7	48.6	45.3
企業動向関連		42.2	41.7	46.7	50.0	55.0
雇用関連		18.8	31.3	45.0	50.0	50.0

表 2 - 1 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 1 2 月	0.0%	12.5%	42.9%	32.1%	12.5%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	9.1%	43.6%	32.7%	14.5%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	12.7%	56.4%	20.0%	10.9%
平成 1 5 年 9 月	1.8%	21.4%	55.4%	14.3%	7.1%
平成 1 5 年 1 2 月	0.0%	22.8%	52.6%	19.3%	5.3%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは 49.6 であり、9月調査分と比べて1.7ポイント下回った。業種別にみても、企業動向関連D I及び雇用関連D Iが9月調査分を上回ったが、家計動向関連D Iが9月調査分を下回った。

表 2 - 1 5 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成 1 4 年 1 2 月	平成 1 5 年 3 月	平成 1 5 年 6 月	平成 1 5 年 9 月	平成 1 5 年 1 2 月
合 計		35.2	33.0	45.9	51.3	49.6
家計動向関連		33.3	29.8	45.7	52.1	46.6
企業動向関連		35.9	35.7	46.7	50.0	54.7
雇用関連		45.0	45.0	45.0	50.0	55.0

表 2 - 1 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 1 2 月	0.0%	11.1%	40.7%	25.9%	22.2%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	12.0%	30.0%	36.0%	22.2%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	18.2%	50.9%	27.3%	3.6%
平成 1 5 年 9 月	1.8%	24.6%	52.6%	19.3%	1.8%
平成 1 5 年 1 2 月	3.4%	22.4%	50.0%	17.2%	6.9%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは50.0であり、9月調査分と比べて1.8ポイント下回ったが、D I値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、雇用関連D Iが9月調査分を上回ったが、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが9月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		34.0	35.2	43.6	51.8	50.0
家計動向関連		37.1	39.0	45.5	50.8	49.3
企業動向関連		28.1	26.6	39.7	52.9	42.6
雇用関連		31.3	37.5	45.0	55.0	80.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年12月	0.0%	5.7%	43.4%	32.1%	18.9%
平成15年3月	1.9%	13.0%	27.8%	38.9%	18.5%
平成15年6月	0.0%	9.1%	63.6%	20.0%	7.3%
平成15年9月	1.8%	34.5%	38.2%	20.0%	5.5%
平成15年12月	5.3%	19.3%	50.9%	19.3%	5.3%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは48.2であり、9月調査分と比べて5.4ポイント下回り、下降幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが9月調査分を下回った。

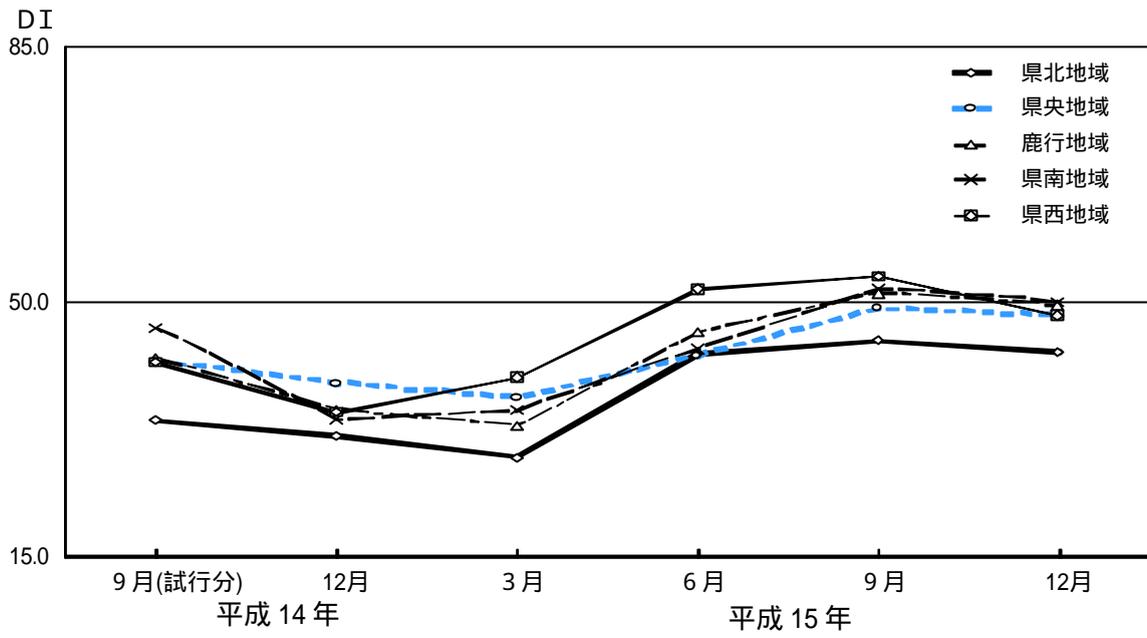
表2 - 19 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年	平成15年	平成15年	平成15年	平成15年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		34.9	39.7	51.8	53.6	48.2
家計動向関連		33.1	37.5	51.6	52.3	46.2
企業動向関連		32.4	39.5	51.3	54.2	50.0
雇用関連		55.0	55.0	55.0	60.0	55.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年12月	3.8%	5.7%	35.8%	35.8%	18.9%
平成15年3月	0.0%	12.1%	43.1%	36.2%	8.6%
平成15年6月	1.8%	27.3%	47.3%	23.6%	0.0%
平成15年9月	1.8%	34.5%	45.5%	12.7%	5.5%
平成15年12月	0.0%	25.0%	44.6%	28.6%	1.8%

図 2 - 2 地域別先行き判断D Iの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	287 人	95.7%
県北地域	60 人	59 人	98.3%
県央地域	60 人	57 人	95.0%
鹿行地域	60 人	58 人	96.7%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	56 人	93.3%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	製造業（一般機械器具）	新3種の神器（デジタルカメラ・薄型テレビ・DVD）などで活況を呈している。
やや良くなっている	家計関連	家電販売店	11月から付加価値のある商品を購入するケースが見受けられるようになった。
		小売業（酒類）	ボジョレーヌーヴォー等ワインの販売が好調である。
		卸売業	売れ筋のブランド品がでてきた。
		観光型ホテル	売上げが前年割れの状態が続いていたが、前年を上回るようになってきた。
		ゴルフ場	高齢者が健康維持のため、仲間どうして誘い合って来場している。
		パチンコ店	来客数が増加しており、商圏も拡大している。
		ゲームセンター	売上げが多少なりとも増加傾向にある。
		レジャー施設	売上高・入場者数ともに前年比を上回っている。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	半導体製品・コンピュータ関連の部品の受注が9月以降急激に増加した。
		製造業（電気機械器具）	取扱製品の受注が活発になっている。
		製造業（電気機械器具）	来年の1月頃まで増産で推移しそうである。また、回りの会社も少しは良くなっているという話を聞く。
		製造業（輸送用機械器具）	当社・同業者ともに受注量が増加している。
		非製造業（建設業）	公共工事と住宅関連において動きがある。
	雇用関連	学校就業関係者	例年と比較すると求人数・内定率はほぼ同じであるが、求人に関する問い合わせが多いと思われる。
人材派遣業		製造業からの受注件数が増加している。	
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	9月頃と比べるとやや良くなっているようにも感じられるが季節的なものであり、依然として堅実消費が続いている。
		衣料品専門店	ボーナスの時期であるが、売上げが上昇する気配がない。
		農産物直売所	前年並みの客数・売上げで推移している状況が続いている。
		小売業（靴製品）	客の買物行動に変化がなく、衝動買いがない。
		居酒屋	売上水準に変化が見られず、客の様子もあまり変化が見られない。
		観光型ホテル	3か月前と同様、売上げが前年同期とほぼ同じ水準で推移しており、特段の変化は見られない。
		タクシー運転手	忘年会等で売上げは上昇しているが、季節的なものであり、景気は前回調査時と変わらないと思われる。
		タクシー運転手	あまり車の動きがなく、昨年と比べて悪い状況に変わりがない。
		レジャー施設	来客数・客単価ともに変化が見られない。
		住宅販売会社	受注数にほとんど変化がない。
	企業関連	林業関係者	材価は小康状態が続いている。
		製造業（一般機械器具）	作業量・受注量ともに3か月前とほぼ同じである。
		製造業（電気機械器具）	売上げが伸びず、売上増加も続かない。
		製造業（電気機械器具）	業務量は増えているが、景気が回復しているとは感じられない。
		製造業（輸送用機械器具）	国内作業の海外シフト（空洞化）の傾向に変化がない。
		非製造業（金融業）	年末で若干の売上増等は期待できるが、例年の流れであり、特別な動きは見られない。
		非製造業（不動産業）	相変わらず契約までの時間がかかり、値引きの要求も強い。市場の低迷状態は依然として続いていると思われる。
	雇用関連	非製造業（情報処理サービス）	取引先との取引内容に大幅な変化がないため、売上げ・業務量ともに変化がない。
		雇用相談員	雇用は多くなっているように見えるが、実際は採用してもすぐ辞める等応募者とのミスマッチであり、同じ企業・同じ業種からの求人募集である。
やや悪くなっている	家計関連	求人広告	人材派遣・アウトソーシングの企業が求人を出しているが、その他の企業では全く採用する予定が見られない。
		商店街代表者	悪化の度合いは鈍化したが、依然として売上げの減少が続いている。
		コンビニエンスストア	客の買上点数が減少している。
		小売業（土産物）	客から景気が良くなったという話が全く聞かれない。
		食堂	ボーナスが支給されても商店街の人出が少ない。また、夜も静かである。
	企業関連	観光型ホテル	収支状況・利用状況ともに低下が見られる。
		製造業（食品）	販売単価が減少している。
		非製造業（建設業）	依然として受注環境は厳しく、顧客の要求も厳しいものになっている。

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	スーパー	客数は前年並みにもかかわらず、買上単価・買上点数ともに減少しており、その結果売上減少になっている。
		スーパー	お歳暮の件数が減少傾向にある。また、チラシなどで納豆・野菜などの商品をかなり安い価格でアピールしてもあまり効果がない。
		ガソリンスタンド	暖冬や競合店の安売りにより灯油が売れない。
		スナック	12月に入っても客の動きが少ない。また、客の話では、ボーナスの支給額が減少したという話が多い。
		クリーニング店	ボーナス時期であるが、来客数・売上げともに減少している。
	企業関連	水産業関係者	記録的な不漁になっており、冷蔵会社の倒産もあって、不景気となっている。

(2) 県央地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	家計関連	都市型ホテル	忘年会の利用が、曜日に関係なく夜を中心に入っている。	
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	仕入先や客との日常会話のなかで、以前と比較して景気に関して深刻な話題が少なくなったように感じる。また、店頭販売単価も若干ではあるが上昇している。	
		家電販売店	集客数に対する購入比率が上昇している。	
		レストラン	フェア等の影響により売上げが前年比を上回った。	
		タクシー運転手	飲食店からの連絡が以前よりも多くなっている。	
		ゲームセンター	来客数が増加しており、売上げも増加傾向にある。	
	企業関連	製造業(一般機械器具)	業務量が多少なりとも増加している。また、他社も忙しくなっているようである。	
		非製造業(広告代理業)	求人広告掲載件数・販売促進広告受注件数ともに前年同期を上回っている。	
		非製造業(コンサルタント業)	経営環境の厳しさに対して諦めるのではなく、知恵とやる気を出して頑張っている中小企業等が多くなっている。	
	雇用関連	人材派遣業	企業からの受注件数が増加している。	
		雇用相談員	総体的に緩やかながら雇用情勢に改善が見られる。	
公共職業安定所		有効求職者数が減少し、有効求人数・有効求人倍率ともに増加している状況が続いている。		
変わらない	家計関連	百貨店、総合スーパー	高額商品の動きが鈍く、また、安価な商品にも人気があるわけでもなく、引続き目的買いの傾向が強い。	
		百貨店、総合スーパー	「今必要だから買う」、「今欲しいから買う」という傾向は3か月前と変わっていない。「これを購入しておけば、後に役立つだろう」という買い方は見られない。	
		スーパー	前年同期を下回っている状況が続いている。	
		スーパー	売れる商品と売れない商品の差が非常にはっきりしている。また、販売が好調な店舗とそうでない店舗もはっきり分かれている。	
		専門スーパー	年末ということもあり、高額商品の売上数は伸びているが、一人当たりの買上点数は伸び悩んでいる。また、安い価格をつけてもまとめ買いする客が少ない。	
		自動車販売店	市場は動いているが、業種によってはまだ大変なところもあるという話を聞く。	
		農産物直売所	客数は1~2%伸びているが、価格が安いいため売上げの増加につなげている。	
		専門スーパー	顧客(工事業者・農家)から相変わらず良い話が聞かれない。農家は今年の作物の出来が悪いために良くないと感じているようである。	
		レストラン	客数は前年並みで推移しており、忘年会関係も小グループを中心に安定した動きがある。	
		旅行代理店	海外旅行の回復に遅れが見られるが、国内旅行は微増となっており、しばらくは近場の堅実型旅行が続くと思われる。	
		タクシー運転手	忘年会が始まり夜の利用客は増加しているが、これは一時的なものであり、昼の利用客は相変わらず少ない。	
		ドライブイン	団体客の予約数の減少は続いており、忘年会の件数も少ない。	
		レジャー施設	船を売る人がいる一方で、大型の船に買い替える人もいる。個人差が大きくなってきているようである。	
		レジャー施設	施設利用者の売上単価は約2%増加しているが、利用率は減少している。	
		理・美容店	他店との差別化が図れず、3か月前と比べて変化は感じられない。	
		建築設計事務所	相変わらず景気回復の兆候が見えず、この状態が普通であると認識せざるを得ない。	
		企業関連	製造業(食品)	売上げにおいて現状を維持するのが精一杯の状態であり、良くなっているとは思われない。
			製造業(出版・印刷業)	商業印刷物は、多少上向きであるが、官公庁からの需要に大きな動きが見られない。
			製造業(出版・印刷業)	12月の繁忙期にもかかわらず、売上げが低迷している。業界全体として、冷え切った状況に変わりがない。
	製造業(土石製品)		受注量が増加していない。	
		製造業(金属製品)	ここ5・6か月受注量に変化がない。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	非製造業（建設業）	受注状況に変化は見られない。
		非製造業（輸送業）	新たな仕事の引合いがあっても競争が激しく、荷主の優先順位は単価から入ってくる。
		非製造業（金融業）	運転資金を中心とした需要が大部分であり、設備投資の意欲が感じられない。
		非製造業（情報処理サービス）	商談は増加傾向にあるが、価格低下が著しく、景気に盛り上がりを感じられない。
やや悪くなっている	雇用関連	求人広告	年末に向けて求人が増える時期であるが、今年はそのような動きが見られない。
	家計関連	スーパー	ボーナス支給日は前年と比較して、一人当たりの買上点数・客単価ともに大きくマイナスとなった。要因としては、ボーナスから社会保険料の控除額が増加したため手取りが減少し、購買意欲を削がれたためだと思われる。
		コンビニエンスストア	売上げが低迷しており、客の反応も今一つである。
		ガソリンスタンド	燃料油以外の商品について買い控えが見られる。
		ファミリーレストラン	客の来店頻度が減少しており、客単価も減少している。
		都市型ホテル	昨年よりも忘年会の予約が減少している。また、忘年会と新年会をどちらかに統一して行う企業が例年よりも多いように感じる。
		観光名所	来客数が減少している。
	ゴルフ場	10月までの来場者数は対前年比で伸びていたが、11月に入り天候の影響もあり来場者数が前年比を下回った。	
	企業関連	製造業（食品）	原材料の価格が上昇しており、売上げも減少している。
	悪くなっている	家計関連	商店街代表者
理・美容店			客の来店頻度が2か月に1回から3・4か月に1回に延びており、開店以来の低収入となっている。
企業関連		製造業（一般機械器具）	11月・12月と売上げが過去最低を記録している。

(3) 鹿行地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	客数が増加しており、高額商品でも価値のある物は購入している。
	企業関連	製造業（食品）	年末商戦（ギフト・おせち等）が好調であった。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	物価も底値で安定しており、消費者の購買力が多少上向いているように感じられる。
		観光型ホテル	忘年会の利用客が多く、平日の利用客も増加している。
		タクシー運転手	忘年会などにより夜の人出が多くなり、収入も良くなっている。
		クリーニング店	近くの同業者が休業しており、客が少し流れてきたようである。
		サービス業	客との会話の内容から、上向き傾向にあると感じる。
		住宅販売会社	受注量が増加している。
	企業関連	製造業（金属製品）	輸出を軸に高水準で推移しており、販売価格も上昇している。業績回復基調といえる。
変わらない	家計関連	製造業（化学工業）	原料高騰分の製品価格転嫁が徐々に浸透しており、荷動きが悪くなった。
		非製造業（輸送業）	アパレル関係・肥料・合成樹脂等の貨物の動きが活発になっている。
		小売業（金物店）	前回、米価の一時的な値上りもあり農家の収入増が消費に回り景気の上昇につながると回答したが、現状では何ら変化はなく横這いで推移している。店頭での客との会話も悲観な話が多い。
	企業関連	小売業（酒類）	売上高が横這いで推移している。また、客数は増加しているが、客単価が減少している。
		コンビニエンスストア	農家の買上点数が依然として減少している。
		自動車販売店	来店者に景気の状態を聞いてみたが、以前とほとんど変わらないという答えが多い。
		専門スーパー	気温が低くなり、冬季商品の動きが良くなってきたが、前年同期と比べて客数・客単価ともに変わらず、特に変化は見られない。
		小売業（菓子販売店）	相変わらず商品の動きが鈍い。
		タクシー運転手	前年同期と比べて売上げに変化はない。
		割烹料理店	観光客が年々減少しており、人通りも少ない。地元の不景気で宴会等の予算も少なくなっている。
		ゴルフ場	相変わらず、計画・売上げの対前年同期比ともに数字が悪い。
		クリーニング店	年末は売上げが伸びる時期であるが、3か月前と変わらず厳しい状況である。
		住宅販売会社	客の様子を見ると、特に変化は見られない。
		製造業（印刷業）	時期的な関係で受注量は増加しているが、景気が良くなったとは感じない。
		製造業（化学工業）	会社の売上げに変化がない。
		製造業（窯業・土石製品）	公共事業・建設事業の伸び悩みにより、依然として販売高・製品単価の改善が見られず、景気の改善は見られない。
		製造業（窯業・土石製品）	業種によっては仕事量が増えているようであるが、全体的には仕事量が十分に確保されていないため、厳しい状況が続いている。
非製造業（金融業）	スーパーなどでは、客単価が減少し、売上げが伸びていない。依然として個人消費が低迷していると思われる。		

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	非製造業（住宅設備施工業）	業務量に特に変化がない。
	雇用関連	人材派遣業	顧客からの注文件数・受注価格ともに回復の兆しが見えない。
		民間職業紹介業	製造業の求人はやや増加傾向にあるが、事務・販売系の職種は減少傾向にあり、総数はほとんど変化がない。
		公共職業安定所	新規求人数が増加していない。
		学校就業関係者	会社の人と話をしていると、業務量が少しずつ増加してきたが、まだ若い人を雇えるほどではないという話が聞かれる。
	雇用相談員	不景気で「仕事がない・物が売れない」という事業所が相変わらず多い。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	農産物全般について低価格のため、売上げが減少している。
		衣料品販売店	ディスカウント店の特売品に客が集中している。必要最低限の物しか購入しない傾向にある。
		家電販売店	買い替えるのではなくて、修理して使い続ける客が増えているように思われる。
		書店	競合店が大型化している。また、雑誌・書籍だけでなく文具事務用品も扱っているが、当該部門でも競合店が増えており、値引競争になっている。
		スナック	季節柄出費がかさむ時期であり、他方面への出費の反動が出たと思われる。
		観光型ホテル	客単価が減少している。
		タクシー運転手	忘年会の減少、運転代行業の利用により、タクシーの利用が減少している。
		観光名所職員	団体の観光客数が減少している。
		洋食食堂	夏の繁忙時から比較すると秋・冬は停滞気味である。
		パチンコ店	サラリーマン等の客数が減少している。
	喫茶店	客が食後の飲み物を注文しなくなっている。	
		ドライイン	コイヘルペスウィルスの風評被害の影響があったと思われる。
	企業関連	水産業関係者	魚（高級魚・大衆魚ともに）の生産者価格が減少傾向にある。
		製造業（飼料製造）	消費低迷と生産過剰により販売価格が低下し、採算が非常に厳しい状況となってきた。
悪くなっている	家計関連	レジャー施設	客足が悪く、売上げがダウンしている。
		理・美容店	気温に左右される業界であるが、12月に入ってからは一段と客足が減少した。同業者も同じような傾向である。
		室内装飾業	住宅を建てる人が減少している。
	企業関連	農業関係者	葉物・根菜類等全て順調に育ち、価格が暴落している。
	非製造業（不動産業）	雇用不安と収入の減少が続いている。	

（４） 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	洋食食堂	顧客の来店数が増加しており、話の内容も明るくなっている。
	企業関連	製造業（食品）	ギフトの売上げが好調である。
	雇用関連	人材派遣業	解約する顧客がなくなり、新規に増員の受注が増加している。
		求人広告	求人広告の掲載件数が増加している。
	公共職業安定所	主要企業を対象とした景気の動向調査において、「良い」と回答している企業が前回調査よりも増加している。また、月間有効求人倍率も改善している。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	高額商品（高級和牛・珍味等）の動きがよい。また、客の買上点数も増加傾向にある。
		スーパー	商品単価は下落しているが、客数は前年比でやや伸びている。
		家電販売店	暖房商品が少々不振であるが、パソコン等の動きが好調となり、上向きに推移している。
		農産物直売所	野菜の価格が半値位となっているなかで、全体の売上げが前年を上回ることができた。
		小売業（各種食料品）	客単価は変わらないが、客数・買上点数が増加している。
		洋食食堂	アルコール類が通常よりも多く出るようになった。
		都市型ホテル	年末を迎え忘年会等の宴会が多数あり、それに伴い宿泊も増加しており、売上げも上昇している。
		ゴルフ場	社用接待等で利用する客が増加している。
	理・美容店	高齢者が、美に対して高品質で接客マナー等が整っている店に足を運んでいる。このため、当店では高齢者を対象とした特色ある取組みを行っている。	
	企業関連	製造業（食品）	前年同期よりも客数・売上げともに上回っており、好調である。
製造業（窯業・土石製品）		売上げは減少傾向だが、人件費削減等のリストラによって収益面では大幅な改善を図ることができた。	
製造業（一般機械器具）		アメリカの好況により売上げ・利益ともに好調に推移している。	
雇用関連	学校就業関係者	機械関係の製造業について求人数が増加している。	

回答区分	分野	業種・職種	理由	
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	一人当たりの買上点数は減少しているが、一方で価格の高い商品で売れている商品もある。	
		コンビニエンスストア	客の購入単価が減少している状況に変化はない。	
		専門スーパー	必要な物は購入するが、どんなに価格が安くても衝動買いが少ない状況に変わりはない。また、暖冬で冬物の購入が遅れているが、他の消費に廻った様子がない状況も変わっていない。	
		旅行代理店	依然として、ヨーロッパ・アメリカなど長期の商品が動かず、かといって安・近・短の商品が動いているわけでもない状況が続いている。	
		タクシー運転手	一日の営業回数が12～13回で変化がない。また、売上げも変化がない。	
		タクシー運転手	例年12月は忘年会等により利用が増加するが、今年は期待はずれであった。	
		ゴルフ場	来場者数が多少増加しているが、冬季料金（価格が安い）が要因になっていると思われる。	
	企業関連	製造業（食品）	売上げの減少した顧客がある一方で、新規の顧客を獲得できるようになり、全体としては横這いで推移している。近隣の小売店を見ても色々な販促を使って努力しているが、現状を維持するのが精一杯のようである。	
		非製造業（建設業）	年末を迎えるにあたり、受注が多少増加するのではないかと期待していたが、これといったまとまった受注も依頼もなかった。	
		非製造業（建築設備業）	受注状況に変化がない。	
		非製造業（輸送業）	貨物の種類によって動きが違うが、新規の引合いがなく、全体として変化がない。	
		非製造業（金融業）	12月であり季節的な景気の好感感を感じられるが、明らかな景気の上向きは見られない。	
	雇用関連	雇用相談員	すべての業種で回復の様子は見られず、横這いの状態が続いている。求人等については補充が主で増員は極めて少ない状況である。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	生鮮品の一品単価が下落している。	
		スーパー	売上げが減少している。中身を見ると、客数・買上点数・客単価ともに減少している。	
		自動車販売店	「ボーナスが支給されたので車を購入する」という人が少ない。	
		ガソリンスタンド	灯油の販売が暖冬のため伸びていない。	
		和食食堂	客の夜の夕食回数が減少している。また、客単価も少し減少している。	
		都市型ホテル	忘年会のシーズンを迎え、多忙とはなってきたものの、景気低迷から安価なプランが多く出ており、人数も減少傾向である。また、宿泊客はインターネットでのおすすめプラン等の利用増加が見られるなど、少しでも安い方に目が向いていることから景気が悪くなっていることが分かる。	
		旅行代理店	受注件数が前年を下回っており、客単価も減少している。	
		タクシー運転手	飲食店の客が少ないため、夜の仕事が少なくなっている。	
	企業関連	製造業（コンクリート製造業）	公共投資の依存が高いため、業界ではもう仕事がないといった声が多く、手持ち案件でしのいでいる状況にある。	
		非製造業（建設業）	例年年末は正月を迎えるための住宅の塗装などで忙しくなるが、今年は受注が少ない。	
		非製造業（不動産業）	来客数・客単価ともに減少している。	
	悪くなっている	企業関連	製造業（食品）	コイヘルペスウイルスによる霞ヶ浦のイメージダウンにより売上げが大幅に減少した。

（5） 県西地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	都市型ホテル	例年より宿泊しての忘年会が目立っており、客の流れが活発である。
やや良くなっている	家計関連	家電販売店	以前と比べて買い渋りが減少している。
		農産物直売所	季節的要因を考慮しても、客数・客単価ともに増加している。
		洋食食堂	来客数・売上げともに増加している。
		都市型ホテル	各種会合等の利用が増加している。また、宿泊関係もイベント等により週末は少しではあるが増加している。
		旅行代理店	社員旅行の利用によりやや良くなった。
		ゴルフ場	11月の来場者数が前年同月並みに回復し、12月は前年同月を上回る勢いである。客もやや元気が出てきたように感じられる。
企業関連	製造業（輸送用機械）	発注量・受注量ともに増加している。	
	非製造業（建設業）	規模の大きな工場より受注があった。また、小さな工事も少し動きが出てきている。	
	非製造業（不動産業）	賃貸物件で高額物件が稼動するようになってきた。	
雇用関連	公共職業安定所	10月に実施した調査において、「良い」と回答した企業の割合が増加している。また、求人は増加傾向、求職者は減少傾向が続いており、雇用保険受給者についても減少傾向で推移している。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	商店街代表者	年末を迎えても、依然として景気の良い話は聞かれない。
		スーパー	売上げ・客単価ともに変化がない。
		ガソリンスタンド	価格競争が厳しい業界であるが、やや価格に是正の動きが出てきている。しかし、販売数量は前年並みかやや下回る状況にあり、総体的には変わらない状況である。
		タクシー運転手	客の動きに変化はない。
		ドライブイン	例年12月は客足が一番落ち込む月であるが、今年も同じような傾向である。
		ドライブイン	お土産の購入が少なく、一団体当たりの人数も少人数である。
		ゲームセンター	来客数は増加傾向であるが、客単価は減少しており、総体的には変化がない。
		レジャー施設	施設の利用者は若干増加しているが、施設内での消費額が増加傾向にない。
	企業関連	製造業（食品）	年末の増産体制に突入しており、前回調査時と同様、好調を維持している。
		製造業（化学工業）	前回調査時に引続き、受注が増加している状況が続いている。
		製造業（金属製品）	受注状況に変化がなく、注文を受けても延期になるケースもある。
		製造業（電気機械器具）	ボーナス商戦の時期となり、景気が良くなることを期待していたが、売れる商品と売れない商品がはっきり分かれており、総体的には変わらない状況である。
		非製造業（倉庫業）	9月頃と比べて業務量にほとんど変化がない。
		非製造業（金融業）	卸・小売店の売上減少傾向に変わりがなく、悪い状態で変わらない。
雇用関連	非製造業（広告業）	前年と比べて売上げに変化はない。新規開拓でカバーしている状況である。	
	学校就業関係者	求人倍率に変化が見られない。	
やや悪くなっている	家計関連	雇用相談員	職種によって雇用にバラツキが見られるが、全体的には変動がない。
		商店街代表者	高額商品が売れなくなっており、少しでも安くて量の多い商品が売れている。
		スーパー	消費者の買物行動を見ると、余分な買物はしていない。また、価格の安い商品を重点的に購入しており、買上点数も伸びていないため、売上げが伸びていない。
		衣料品専門店	客の買い控えがあり売上げが低迷している。
		専門スーパー	暖冬により、冬物の消費が伸びていない。
		和食食堂	売上げが対前年比で下回っており、新店舗の売上げも予想売上げを下回った。
		一般食堂	忘年会の予約件数が昨年よりも減少しており、来客数も減少している。
		タクシー運転手	駅等から乗車する企業関係の人が減少している。また、夜の時間帯でも居酒屋等からの乗車が少なく、企業等の宴会も減少しているように思われる。
	企業関連	ゴルフ場	年の瀬の影響もあると思われるが、予約等の動きがかなり鈍化している。
		レジャー施設	各イベント参加者の動向を見ると、回数を重ねるごとに参加者が減少傾向にある。
		農業関係者	米販売代金は増収であったが、野菜等の価格低迷により、生産資材の代金支払いも厳しい状況である。
	雇用関連	製造業（印刷業）	中小零細企業も商店も頑張っているが、合理化・リストラ等も限界にきており足腰が弱ってきている。
		非製造業（コンサルタント業）	特に零細企業（社員数20名以下）で資金繰りが悪化しているように思われる。
	悪くなっている	家計関連	求人広告
理・美容店			寒くなるにつれて、顧客の動きが鈍くなっている。
クリーニング店			不景気のため客も品物を出しそびれているように思われる。
建築設計事務所			設計物件・建築業者からの手続業務ともに激減している。

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	製造業（輸送用機械器具）	新規受注を2・3件確保している。	
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	来店客数が若干ではあるが増加傾向にある。	
		観光型ホテル	消費マインドが回復しつつあり、以前のような景気の底からは脱却したように思われる。	
	企業関連	水産業関係者	今年不漁であった、シラス・イワシ・サバ等の水揚げが期待できる。	
		製造業（一般機械器具）	作業量・受注量ともに若干増加している。	
		製造業（電気機械器具）	大手企業が決算期を迎え、受注量が増加すると思われる。	
		非製造業（情報処理サービス）	年度末はシステムメンテナンス作業等が他の時期よりも多く発生することから、売上げが増加すると見込まれる。	
	雇用関連	学校就業関係者	企業からの求人が不定期ではあるが来るようになってきている。	
		人材派遣業	製造業が好調であり、引続きその傾向が続くと思われる。	
変わらない	家計関連	自動車販売店	新車販売台数が前年を下回っており、変わらないと思われる。	
		農産物直売所	ボーナスカット等の話を聞くと、この先景気が良くなるのは厳しいのではないかとと思われる。	
		小売業（酒類）	酒類の消費が多い働き盛りである30～40才代の長期出張が目立つ。	
		小売業（靴製品）	客は必要な物しか購入しない。また、客単価が伸びていない。	
		居酒屋	外食・飲食の回数を増やすという人が見られないため、現状維持だと思われる。	
		観光型ホテル	足利銀行の経営破たんについては特に影響はないと思われるが、明るい材料も見当たらないので、現状の低水準が続くと思われる。	
		観光型ホテル	予約状況から見ると景気が上向き気配が見られない。	
		タクシー運転手	景気が良くなるという話があり聞かれない。	
		ゲームセンター	売上げが好調な店舗と落ち込んでいる店舗が混在した状況となっており、今後好調な店舗に一極化していくことが予想される。	
	住宅販売会社	客の年収がそれほど上昇していない。		
	企業関連	製造業（食品）	原材料の値上げもあり、今後も消費の落ち込みが続くと予想される。	
		製造業（電気機械器具）	受注量が増加する要素・要因が明確でなく、現状で推移すると思われる。	
		製造業（電気機械器具）	受注が好調な状況は今後も続くと思われる。	
		非製造業（金融業）	受注単価・売上高等も横這いで推移しており、依然として先行きの不透明感は払拭されておらず、今後もさしたる変化はないものと思われる。	
	雇用関連	雇用相談員	液晶ディスプレイ・デジタルカメラの分野では業務量が増加しているが、下請会社は単価が安いので業務量ばかりが増えて、利益回復までには至っていない。	
		公共職業安定所	新規求人が直接雇用ではなく、派遣・請負の求人が目立っている。また、高校生等を対象とした学卒求人も低調である。	
	やや悪くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	大型店の夜間営業、価格競争の激化、企業吸収等当面好転する要素は見当たらない。
			割烹料理店	大手の会社が来年3月で閉鎖するという話があり、景気は良くならないのではないかとと思われる。
レジャー施設			客の消費単価の下落が続いている。	
企業関連	製造業（輸送用機械器具）	国内作業の海外シフトにより価格競争がますます激しくなることが予想される。		
	非製造業（建設業）	現在の手持ち工事が竣工となった後の見通しが立っていない状況である。		
悪くなっている	家計関連	スーパー	客の買上点数が増加しないが景気上昇は見込めない。	
		スーパー	パート従業員から、「収入が横這いであるが、税金・年金が負担増となっているため、出費をかなり抑えている。」という話を聞く。一部の人を除き購買意欲は減少している。	
		小売業（土産物）	先行きが不安定のため、客の消費欲がない。	
		旅行代理店	冬のボーナスが減少傾向にあり、レジャー等の支出は控えムードになるのではないかとと思われる。	
		タクシー運転手	飲食店関係者の利用が減少しており、運転代行業に客を奪われている状況にもあるので、先行きが不安である。	
		クリーニング店	家庭で洗えるものが増えており、クリーニング離れが目立っている。	

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	長い不況のなか、各企業ともリストラなどにより、現在の状況でも生き抜ける体力をつけてきている。
		自動車販売店	小型車が多く販売されており、客の動きも少しずつ活発になってきたように思われる。
		レストラン	具体的に何であるかまだ分からないが、新しい形の企業、新しい消費構造が生まれる兆しを感じている。
		旅行代理店	SARSの後遺症が徐々に薄れてきており、中国へのビザなし渡航等の施策で東南アジア方面への旅行も回復が見られる。このまま行けば、春・夏には回復が期待できる。
		パチンコ店	業界全体として売上等が上昇する時期であり、社会全体の景気回復が作用して良くなるのではないかと思われる。
	企業関連	製造業(食品)	観光シーズンが始まり少しは良くなっていると思われる。
		製造業(一般機械器具)	引合件数が増加傾向にあり、受注決定目前の件数もいくつかあるため、これらを統合するとある程度期待がもてる。
		非製造業(建設業)	土地の動きが多くなっているようであり、マンション・住宅の需要が高まるのではないかと思われる。
		非製造業(情報処理サービス)	同業者との情報交換によると、中央(東京)地区に回復傾向が見られる。中央依存度が高い業界なので、県内に波及してくることが期待できる。
	雇用関連	雇用相談員	緩やかながら雇用情勢の改善が見られ、今後も期待できる。
変わらない	家計関連	百貨店、総合スーパー	一部企業に回復の兆しが見られるようであるが、家計面では依然として雇用や年金などの将来不安が消えておらず、消費よりも貯蓄への傾向が窺える。
		スーパー	店内において様々な変化を与えてアピールしているが、なかなか効果が見られない。
		専門スーパー	本年度よりボーナス支給時に増額負担となった社会保険料や製造業・建設業の業績傾向を見ると、今後景気が良くなるとは思われない。
		家電販売店	必要な商品は購入するという傾向は今後も続くと思われる。
		農産物直売所	一部製造業では業績が回復していると言われているが、末端の消費には、まだ反映されていない。
		都市型ホテル	今の状況では歓送迎会を行わないことも予想され、上昇は望めないと思われる。
		観光型ホテル	見通しをつけるのは難しい状況であるが、急激な変化はないと思われる。
		ドライブイン	観梅に合わせて予約が入ってきているが、最近キャンセルが多いので観光シーズンとはいえ安心できない。
		観光名所	客から明るい話が聞かれないため、厳しい状況は今後も続くと思われる。
		レジャー施設	新規の事業を展開しているが、期待した効果が出ていない。
		理・美容店	外でのチラシ配りやポスティングをしても反応があまりよくない。
		住宅販売会社	足利銀行の問題など、まだまだ不安要素が出てきており、客の購買意欲が高まる状況にはないと思われる。
		企業関連	製造業(出版・印刷業)
	製造業(土石製品)		受注増加の見込みがない。
	非製造業(輸送業)		新年度に向かって貨物の動きは活発になると思われるが、単価が上がるとは思えない。
	非製造業(金融業)		今後3か月の間に急激な資金需要の増加は期待できないと思われる。
	やや悪くなっている	家計関連	スーパー
ガソリンスタンド			暖冬により灯油の売行きが悪化しており、価格の下落もあるため今後良くなるとは思われない。また、客からも良い話は聞かれない。
都市型ホテル			卒業式や送別会の時期であるが、12月が好調であったため、やや悪くなるのではないかと思われる。
タクシー運転手			タクシーの利用者は出張者と高齢者で全体の8割を占めている。各企業は出張経費を削減しており、高齢者は年金問題で不安が広がり財布のヒモを締めてしまうことが予想される。
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	とにかく物が動かない。
		タクシー運転手	会社のチケット利用が半減、飲食関係者の客の減少、代行車の増加など良くなる要素が見当たらない。
		理・美容店	毎回、調査時点で今が景気の底だと思っていたが、どんどん悪くなっており、今後も悪化が続くのではないかとと思っている。

(3) 鹿行地域

回答区分	分野	職種	理由	
良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	民間企業のボーナスが増加しており、先行きは期待できる。	
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	地元の製鉄所がフル稼働に入ったことに伴い、下請けの企業も動き始めている。雇用が促進されれば、商業の活性が進んでくると思われる。	
		商店街代表者	不況脱出の期待感が非常に高くなりつつあるように見受けられる。	
		サービス業	引合いがでてきている。	
		住宅販売会社	株価の上昇あるいは金利の上昇により、前向に考える人が多少増えるのではないかと思われる。	
	企業関連	製造業（印刷業）	顧客のなかには多少良くなってきた業種も出てきている。	
		製造業（化学工業）	来年採用予定の人数が今年よりも増加している。	
		製造業（電気機械器具）	業績見通しが発表されたが、今年度は昨年度よりもかなり上向いているとのことである。	
		製造業（化学工業）	春需要に備えて徐々に出荷量が増加しており、今後も続くと思われる。	
	雇用関連	学校就業関係者	荷主よりフル生産しているメーカーが多いとの情報がある。	
	変わらない	家計関連	商店街代表者	少しずつではあるが、企業の業務量が増加しているようなので、今後企業からの求人は増加することが期待できる。
小売業（酒類）			暖冬の影響もあり、農産物価格上昇の見通しが立たず、景気の上向きは期待できない。	
コンビニエンスストア			客単価の減少は今後も続くと思われる。	
家電販売店			客から話を聞いても、景気が良くなりそうだと感じている人は少ない。	
専門スーパー			リストラや給料が減少したという話が多く、あまり景気の良い話が聞かれない。	
小売業（菓子販売店）			必要な商品を必要なだけ購入するという客の購入スタイルに変化が見られず、購買の増減が少ない。	
タクシー運転手			年金問題・消費税問題（増税）などあまりに負の要因がありすぎるため、景気が良くなると思われない。	
理・美容店			飲食店・商店街に活気がない。	
クリーニング店			3月になれば寒さが和らぎ、日照時間も長くなるが、節目だからということで調髪する人が少なくなっており、総合的には変わらないと思われる。	
ドライブイン			景気が良くなる要素が見当たらない。	
企業関連		水産業関係者	現在は暖冬のため、野菜の育成が進みすぎて生産量が多いが、3月頃は逆に野菜不足になり、客足が遠のく恐れがある。	
		製造業（窯業・土石製品）	魚の生産者価格の上昇が期待できない。	
		非製造業（住宅設備施工業）	これと言って変化する要因が見当たらない。	
		非製造業（住宅設備施工業）	見積物件数が増加しないため、変わらないと思われる。	
雇用関連		人材派遣業	個人消費の伸びも期待薄の状況にあり、当面横這いで推移すると思われる。	
		民間職業紹介業	製造業の動向が鍵を握ると思われるが、大きく上昇することは期待できないと思われる。	
		公共職業安定所	事業者から受注増の話や事業拡張の話が相変わらず聞かれない。	
		雇用相談員	求人申込みも相変わらず少なく、事業所の閉鎖等もこれまでと同程度で推移していることから、変わらないと思われる。	
やや悪くなっている		家計関連	小売業（金物店）	顧客の取引額が減少しており、一般客も必要最低限の物しか購入しないため、先行きはさらに厳しいと思われる。
			衣料品販売店	ボーナスの支給額の減少（あるいは不支給）により、買い控えが続くのではないかと思われる。
	小売業（薬品店）		小売薬業界は規制緩和により大きな影響を受けると思われる。	
	パチンコ店		フリーターの客数が増加しているように感じる。また、客の遊技時間が短くなってきている。	
企業関連	製造業（飼料製造）	原材料の先物相場が一段と高騰しており、更に厳しい状況が予想される。		
悪くなっている	家計関連	観光型ホテル	例年スポーツ合宿の利用が多い時期であるが、予約状況が悪い。	
		ゴルフ場	民事再生法を申請するゴルフ場運営会社が多く、これからも増えることが予想される。	
	企業関連	非製造業（不動産業）	雇用不安と収入の減少により、さらに悪化すると思われる。	

(4) 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由		
良くなっている	雇用関連	人材派遣業	顧客からの受注に対応できない事例が増加傾向にあり、需要に供給が追いつかない状況が予想される。		
		求人広告	客から不景気だという話は聞かれなくなり、来年は少し良くなるという話が多い。		
		公共職業安定所	主要企業を対象とした景気の動向調査において、今後の見通しとして「良くなる」と回答している企業が前回調査よりも増加している。また、事業所訪問において事業主より求人申込みをする方向で検討しているという話題が多くなってきている。		
やや良くなっている	家計関連	スーパー	身の回りの方々や客からこれといって悪い話が聞かれなくなった。		
		農産物直売所	客数が前年比5～10%の伸びで推移しており、今後もこの程度の伸びが期待できる。		
		小売業(各種食料品)	購買意欲が多少ではあるが増加している。		
		ゴルフ場	全般的にビジネスチャンスが広がっているようであり、客の話にも余裕が出てきているように見受けられる。		
	企業関連	製造業(窯業・土石製品)	公共事業の減少に対応できるようになったため、安定的な収益確保が続くことが期待できる。		
		製造業(一般機械器具)	設備先行投資も積極的に行われており、徐々に回復に向かうのではないかとと思われる。		
変わらない	家計関連	専門スーパー	入学・就職の時期で消費が拡大する時期であるが、これまでどおり必要な物だけの購入に止まると思われる。		
		洋食食堂	大型店・チェーン店の出店が一段落し、今後の集客は大きく変わることはないと思われる。		
		和食食堂	全国的には景気回復と言われているが、地方はそういう状況ではない。		
		都市型ホテル	新年会等の宴会があるため、現在の売上げは確保できると思われるが、上昇までには至らないと思われる。		
		旅行代理店	新年度を迎え卒業・入学・入社など出費がかさむ時期であり、このように景気が悪いと旅行の出費は押さえられるのではないかとと思われる。		
		タクシー運転手	企業等のタクシーチケットの利用等が増加しない。		
		タクシー運転手	企業からの需要が回復していない。また、一般顧客も減少しており低迷の状況に変わりはないと思われる。		
		タクシー運転手	客から景気が良くなる話が聞かれぬ。		
		ゲームセンター	首都圏に近い店舗の低迷が今後も続くと思われる。		
		理・美容店	現況に甘んじず、新しいメニュー開発等の努力をしなければ、変わらないと思われる。		
	企業関連	製造業(食品)	長期に渡る不況は下げ止まった感じはするが、具体的に景気が良くなる要素が見当たらない状況である。		
		製造業(食品)	取引先から納入価格の値上げの噂が聞こえてくるが、良い流れなのか悪い流れなのか判断が難しい状況にある。		
		非製造業(建設業)	取引先との情報でも良くなるという話はでてこない。また、引合いも少ない。		
		非製造業(建築設備業)	見積状況からみて変わらないと思われる。		
		雇用関連	雇用相談員	各事業主に話を聞いてみると、「大手企業の景気回復の話が聞かれるが、横這いの状況が当分続く。」と予想している。	
			学校就業関係者	引続き機械関係の求人はあると思われるが、その他の分野については、あまり期待できない。	
	やや悪くなっている		家計関連	スーパー	競合店が進出しており、さらに厳しい状況になると思われる。
				スーパー	相変わらず低価格競争が続いており、客単価の減少が止まらないと思われる。
		家電販売店		例年であれば、進・入学、新社会人等のシングル向け製品の需要が見込める時期であるが、年々購入頻度が減少している。	
		都市型ホテル		謝恩会・歓送迎会等の宴会の時期であるが、他社との見積り合わせで、安価な方を選んでいく状況にあり、今後も良くなる方向には期待できない。	
タクシー運転手		サラリーマンも実質賃下げの状態であり、タクシーの利用が増加するとは思えない。			
パチンコ店		パチンコ・スロットともに法改正により台の性能が落ち、魅力が無くなってしまふことが懸念される。			
企業関連	製造業(コンクリート製造業)	依然として製品価格の下落が続いている。			
	非製造業(建設業)	回りの人々からボーナスが出ない、給料カットになったという話がよく出る。			
	非製造業(不動産業)	一部の企業・役所等を除き、先行不透明感を持っており、不動産購入に慎重である。			
悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	ガソリンの価格が乱れており、利益の確保が難しい状況になっている。今後も価格破壊は改善されないと思われる。		
		企業関連	製造業(食品)	コイヘルペスウィルスの影響により半年は地元商業は回復しないと思われる。	

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	家電販売店	高額商品の需要が高まる要素がある。
		農産物直売所	売上げ・来客数が上昇傾向にあり、今後も続くと思われる。
		ガソリンスタンド	自動車関係の部品を製造している工場で生産が増加してきているという話が聞かれる。
		洋食食堂	次のパーティーや会食の話をしているのが聞かれるようになり、予約件数も増加している。
		旅行代理店	来年旅行をすることを考えている人の来店が若干ではあるが動き出している。
		タクシー運転手	企業関係の客が予想以上に減少しているが、企業側では景気の現状を見て一時的に様子を見て活動を控えているためと思われる。春先には少しずつ企業も景気に対応した動きを始めるのではないかとと思われる。
		ゴルフ場	価格競争激化の状況において、やや高めの価格設定となっているにもかかわらず、来場者数が回復傾向にある。
	企業関連	非製造業（倉庫業）	株価が少しずつ上昇しており、景気は良くなってきているのではないかとと思われる。
非製造業（不動産業）		住宅ローン減税が延長することが決定した。また、契約に至らないまでも来客数・賃貸住宅新築件数ともに増加している。	
雇用関連	公共職業安定所	10月に実施した調査において、先行きを「良い」と回答した事業所の割合が増加している。	
変わらない	家計関連	スーパー	客は必要な商品以外購入しないケースが今後も続くと思われる。
		スーパー	株価同様、先の予測が読みきれない状況にある。
		寿司店	宴会の予約状況からみて、それほど景気は変わらないと思われる。
		タクシー運転手	2月・3月は例年客足が減少する時期であり、景気が上向くことは期待できない。
		ドライブイン	全体の景気が急に良くなるとは考えにくい。各企業の努力次第で景気のよし悪しが分かれてくると思われる。
		ゲームセンター	集客等のための話題性に不足しており、景気が上向く期待感がもてない。
		レジャー施設	イベント参加者・来場者の減少が続くと思われる。
	住宅販売会社	回答時点において、住宅ローン減税が延長となるのか不明であり、来年以降の受注見通しが不透明である。	
	企業関連	製造業（電気機械器具）	必要な物は購入するが、必要でない物に対しては行動をおこさない状況にあり、その結果先行きは変わらないと思われる。
		非製造業（金融業）	良くなる産業が見当たらない。
非製造業（広告業）		新たな戦略により伸びている顧客の受注増加が期待できるが、その他の顧客については受注が減少することが予想される。	
雇用関連	学校就業関係者	求人倍率が上昇する要素が見当たらない。	
やや悪くなっている	家計関連	衣料品専門店	県西地域は、足利銀行の破たんによりこれから相当の影響が出てくるとと思われる。
		専門スーパー	
		都市型ホテル	
		和食食堂	消費者は外食を抑制している傾向にあり、さらに厳しい状況が続くと思われる。
		一般食堂	農家では、この秋出荷した野菜が安値で利益にならないと嘆いている。農家の方が外食に来てくれないと景気は良くなるらない。
	タクシー運転手	先行きの不透明さが浮き彫りになっており、また、企業の新規採用を新年度は見送るという会話も耳にすることがあるため、3月期はなお厳しい状況になると思われる。	
企業関連	農業関係者	農作物販売品が品薄となり販売代金等の収入が見込めないため、先行きは厳しいと思われる。	
	製造業（木材業）	10～12月の見積物件が少なかったため、落ち込むことが予想される。	
	製造業（印刷業）	地元経済に影響が大きい足利銀行が破たんした。運転資金や今後の借入にどのような影響が出るのか、不安一杯の会社・商店が多い。	
悪くなっている	家計関連	建築設計事務所	例年であれば、次年度に向けて準備・計画する時期であるが、今年はまだ目どが立っていない。

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	地元の基幹産業である工場が閉鎖するという情報が流れており、本当であれば、景気回復は見込めない。
	スーパー	客は価格の安い商品を目的買いで購入している。
	コンビニエンスストア	酒類販売免許の自由化にともない、個人店舗の廃業が深刻化してくると思われる。
	農産物直売所	お歳暮の時期であるが、お歳暮商品の動きが昨年より悪い。
	小売業(酒類)	酒類は品質管理・商品知識のある専門店を利用する客が増加している傾向にある。
	小売業(靴製品)	
	ドライブイン	野菜の価格が安い。
	卸売業	以前と比べると販売単価が上昇しているように思われる。
	食堂	仕事がない人が多く見られる。
	観光型ホテル	消費マインドは回復しつつあるように思われるが、消費者は商品にメリットがあるのか厳しくチェックしている。
	観光型ホテル	賃金の遅配やボーナスの未支給企業が増加するなど、地方経済の停滞が心配である。
	旅行代理店	地元自治体でも他地域からの観光客誘致に取り組んでいるが、大きな観光資源がない等の影響もあり厳しい状況である。
	タクシー運転手	相変わらず、駅から乗車する客が減少しており、待ち時間が長い。
	タクシー運転手	客に「忘年会が4・5回は入っているんでしょう?」と聞いたところ、「1回あるかな」という返事であった。あまり景気の良い話は聞かれない。
	タクシー運転手	政府発表では景気が上向きに修正されているが、タクシー業界はまだまだ良くなっていない。
	ゴルフ場	道路交通法改正による飲酒運転に対する罰則強化は、サービス業界には相当厳しいものとなっている。これを乗り越えるために何か代案がないか考えているところである。
	レジャー施設	客の滞在時間が短くなっているように感じられる。必要な物にはお金を使うが、それ以外には余裕がないためと思われる。
	レジャー施設	冬のボーナスカットがあったところが予想以上に多く、消費を控えている人が増加している。
	理・美容店	これまで年配の客は月に1~2回来ていたが、来客数がどんどん減少している。
	理・美容店	まだまだリストラがあるという話を聞く。
クリーニング店	通行量が少なくなっている。	
住宅販売会社	こだわりのモノには、お金を出す人が増えている。	
企業関連	水産業関係者	冷蔵業者の倒産による地元の水揚処理の減少にともない、水揚量も減少している。
	製造業(食品)	海外への生産拠点の移動により、失業者の増加と輸入品の価格に対抗できなくなってきた。
	製造業(一般機械器具)	地元商店街を見ても閉店しているところが多く、中小企業においても仕事がなく、生き残りに必死である。
	製造業(電気機械器具)	受注先から、環境ISO取得の打診があった。数年後には環境ISOを取得している企業から発注するとのことである。
	製造業(電気機械器具)	回りの人に最近の景気の状態を聞いてみると、「悪い」・「良い話は何もない」という人ばかりである。
	非製造業(建設業)	市町村合併の推進により、新たな需要が生じるのではないかと感じている。
非製造業(不動産業)	不景気のためか年末のためか近所の住宅地で連続して盗難事件が発生した。また、公園に寝泊りするホームレスの人数が増加している。	
雇用関連	学校就業関係者	会社等が持参するカレンダー・手帳の数は例年より少なくなっている。
	雇用相談員	海外生産比率を4割から6割にする計画があり、下請企業のなかには閉鎖せざるを得ないところがでてくるのが懸念される。
	求人広告	個人消費に動きがなく、中小企業は厳しい状況が続いていると聞いている。
	公共職業安定所	企業の早期退職が計画通りに実施されている。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	例年、年末には仕入先から余ってしまうほどカレンダーなどをいただいていたが、今年は3本となっている。経費を削れるだけ削るという表れだと思われる。
	商店街代表者	今年は夏が冷夏、9月・10月が残暑、そして11月・12月が暖冬と天候が不順であった。11月に気温が20以上を記録する日があり、今年の冬の商戦は大荒れである。
	百貨店、総合スーパー	本年のボーナスの支給は、社会保険料の算出方法の変更により前年よりもマイナス感が強く、購買意欲も減退気味である。
	百貨店、総合スーパー	興味のあるモノの優先順位が個人によって様々であり、上位にランクされるモノには惜しみなく消費する姿勢が見られる。
	スーパー	品質が良ければある程度値段が高くても買い求める傾向はあるが、基本的には買い控えの傾向である。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	スーパーは、店が過剰な状況（オーバーストア化）にあり、客は商品を複数の店舗を回って選んでいる。
	専門スーパー	今までは安い商品であれば、まとめ買いする客が多かったが、現状では必要でなければ購入しない。店内滞在時間が長く、行楽・旅行等へ出かけることが減り、近場で家族と過ごす傾向が進んでいると思われる。
	自動車販売店	新しい年を迎えるにあたり、前向きに考えている人が多くなってきたと思われる。
	農産物直売所	野菜の価格が安いため、売上げが伸びない。
	専門スーパー	電動工具・自転車などで新しい物を購入せずに修理を依頼する事例が以前よりも多い。また、パート社員は厚生年金の保険料率アップやパートタイム控除などがどのようになるのか心配している。
	レストラン	価値観の移行により消費者の行動パターンに変化が見られるが、どこへ向かっているのか明確に掴みきれない状況にある。
	レストラン	ボーナスが昨年より減少したという話をよく聞く。
	都市型ホテル	冬のボーナスが支給されたが、昨年より大幅に減少したため、買物も少なくなりそうである。
	観光型ホテル	小宴会、グループによる昼・夕食会が散見される。
	タクシー運転手	遠距離利用者が減少しており、自家用車による送迎及び代行車の利用も目立っている。
	タクシー運転手	駅構内では2時間待ちが当たり前の状況である。
	パチンコ店	土曜・日曜・祝日は良いが、平日が厳しい状況である。
	ゲームセンター	店舗間の格差が大きくなっており、中小店舗の落ち込みが激しくなっている。
	レジャー施設	船の保管料等の値下げの要望が強くなってきている。
	理・美容店	新規店舗の進出など同業者が増えると客は分散してしまう。自社独自の目新しい企画をしなければならぬと感じている。
	理・美容店	1,000円カットの店でも辞めるところがでてきている。
	企業関連	住宅販売会社
建築設計事務所		足利銀行の経営破たん余波で、宇都宮市への出店予定が一時凍結となった。仕事が県単位でなく広域化しているため、他県の景気状況も連動しており、不安感が増大した。
農業関係者		暖秋・暖冬により農作物の価格低迷が心配される。
製造業（食品）		自分自身においても購買意欲に欠け、貯蓄するゆとりもない。
製造業（出版・印刷業）		電子入札の動きが間に迫り、価格のさらなる落ち込みが危惧される。
製造業（土石製品）		依然として中国産の安価な物による受注が多い。
製造業（一般機械器具）		製造業は良くなってきているようであるが、その他の業種はまだまだのようである。
製造業（一般機械器具）		赤字決算や対前年同期と比較して利益が大幅減など、大変苦戦を強いられている業者もあり、大手・中堅・中小企業を含めた構造的な不況状況に陥っている可能性も否定できない。
非製造業（建設業）		「景気が悪い」という言葉を使う人が減少しているように思われる。また、車関係の知人のところでは、過去最高の売行きとなっているそうである。
非製造業（輸送業）		米の不作・暖冬による野菜の暴落で資材関連企業は苦戦をしているようである。
雇用関連	非製造業（広告代理業）	仕入れ・給料などの遅延が起きると非常に速いペースで倒産しているケースが多く見られる。
	非製造業（コンサルタント業）	地元企業の社長と話す機会があり、「出店より退店が大事。そのくらい商業環境の変化は早い」という話があった。
	非製造業（情報処理サービス）	従来の景気回復基調時のような、市場を牽引する力強い業種が見当たらない。どの業種も全体的に弱気となっている。但し、製造業の設備投資に若干の明るさが見えてきているようである。
	雇用相談員	業種別に見れば偏りがあるが、総体的に雇用求人数は緩やかながら改善している。しかし、依然として雇用のミスマッチがある。また、依然として中高年の雇用条件が厳しい。
	求人広告	ボーナスがでない、支給額が減少したという話をよく聞く。
雇用関連	公共職業安定所	新規求人においては、特に製造業、運輸・通信業、サービス業の求人が増加している。
	学校就業担当者	大学生の就職がなかなか決まらないようである。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	小売業（金物店）	大型店の出店・大企業の地方進出により、地場産業・地元小売業が痛手を負っている。地域の商店街の存続が危惧される。
	商店街代表者	個人差はあるが、高齢者の購買意欲は強い。魅力ある高額商品は売れている。高齢者の購買に頼るしかないのが現状である。
	商店街代表者	ここ数年、商店をはじめ各企業の忘年会等が抑制気味であったが、今年は多少増加しているようである。
	コンビニエンスストア	客の買上点数は減少しているが、価格の高い商品でも付加価値のある商品は売れている。例えばおにぎり・お弁当では通常の倍の価格でもボリューム・質などが良ければ売れている。また、ドリンクなどでもダイエット・健康などの付加価値がある商品は売れている。
	コンビニエンスストア	客の一回当たりの買上点数は減少してきている。
	農産物直売所	工夫して物売るように心がけている。
	自動車販売店	故障・修理で来店した客から「新品部品でなく、中古部品はないか？」という声が頻繁に聞かれる。
	専門スーパー	農家の多い地域であるが、今年は米が不作で米関連商品の売上げが減少した。
	書店	商店街の売上げ・客数の減少が目立ってきている。
	小売業（菓子販売店）	最近、値引券・クーポン券をつけた新聞折込が多い。当店でも値引券を実施したところかなりの反応があった。客は得になる情報には、かなり敏感になっている。
	タクシー運転手	学生の利用回数が減少しており、またサッカーのサポーターも一人では乗らないで相乗りしている。
	観光名所職員	老夫婦二人あるいは孫と一緒に旅行客が目立つ。
	洋食食堂	前年比以上の売上げは維持している。景気のせいばかりにせず、大切なのは自分達のアイデアと努力なのではないかと思われる。
	ゴルフ場	自分の身の回りで儲かっているのはパチンコ店ぐらいだと思われる。
	レジャー施設	企業の合併問題等が、その企業に勤務する人々のあいだで不安感となり、それが住民にも大きな影響を与えている。
	理・美容店	葬儀のセレモニーホールがオープンした。香典返し等がホールで調達できることになると、一般商店は少なからず打撃を受けることになると思われるが、お清め等で近くの飲食店は人の出入りが多くなると思われる。
	クリーニング店	取引先が民事再生の救済を受けることになった。
	室内装飾業	消費者の財布のヒモが固く、価格の安い商品ばかりが売れて、高い商品は売れない。
	住宅販売会社	家を購入しようと考えている30代の人々の動きは活発であるが、40代以上の人々の動きが今一つのように思われる。
	ドライブイン	安くてそれなりの商品から、高くても良質の商品を選ぶ客が増加している。
企業関連	農業関係者	異常気象で米価は高値であるが、農産物（根菜類）の価格は下落している。
	水産業関係者	不漁に加えて、価格の低迷により地域に活気がない。
	製造業（食品）	コイヘルペスウィルスが発生以来、多少の風評被害が出ている。
	製造業（電気機械器具）	ボーナスシーズン・年末ではあるが、街がかなり活気づいていると思う。土曜・日曜の道路状況も混雑しており、徐々に景気が回復しているのではないかとと思われる。
	製造業（飼料製造）	飼料の安全性の完全確保のために、各社相当額の設備投資を今後1年位かけて行うため、工事関連業種は良くなるのではないかとと思われる。
	製造業（化学工業）	強引な電話セールスが多くなったという話を聞く。
	非製造業（住宅設備施工業）	複数の業者から見積りを取っている客が多く、少ない物件に対して競争となる。
	非製造業（輸送業）	相変わらず、荷主より値下げの要請が多い状況にある。荷主が安い見積りのみで決定する風潮があり、管理体制や仕事の質などがあまり重視されていないのが残念である。
	非製造業（金融業）	青果類が安値となっているが、消費拡大に結びついていない。
	非製造業（金融業）	野菜の価格が下落しており、農家の収入が減少している。また、暖冬により洋服店の売上げが減少している。
雇用関連	人材派遣業	価格と質、両面での競争力がより一層顧客より求められている。
	雇用相談員	大型店の進出により、小売店が店じまいするなど影響が出ている。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	当店における60才以上の万引検挙率が高くなっている。
	スーパー	以前と比べてお歳暮用のギフトの動きが遅い。また、クリスマスケーキの予約状況もあまり良くない。
	スーパー	労使の話し合いの中で、人件費削減・労働時間短縮などのテーマが多くなっている。
	コンビニエンスストア	価格を安くしても売れない商品は全く売れない。客は必要とする商品を購入する傾向にあり、商品に価値があれば、価格が高くても売れる商品にある。
	家電販売店	地上波デジタル放送の影響によりAV機器の動きが活発になってきた。
	自動車販売店	霞ヶ浦のコイヘルペスウィルスの影響が出てきている。
	専門スーパー	デフレ感はなくなってきたように思われる。
	ガソリンスタンド	地元百貨店が来月閉店する予定である。また、霞ヶ浦のコイヘルペスウィルスの問題も懸念される。
	洋食食堂	ボーナスがカットになった等まだまだ暗い話が絶えないようである。
	洋食食堂	テナントが空室となっているところが多い。銭湯とフィットネスクラブ関係が人気があるようである。
	和食食堂	飲食店の新規出店は続いており、競争が激化している。
	都市型ホテル	プライダルのプランで高額なプランが全くでなくなった。宿泊では、安価なプランで宿泊している客からアンケートで価格が高いという声が出てきており、ニーズも細かくなってきている。
	旅行代理店	海外旅行はニューヨークのテロ事件以降、SARS、イラク戦争、中東・アジアの政情不安、旅行会社の交通事故などにより伸び悩みの傾向である。
	旅行代理店	旅行代理店で閉店する店舗がでてきている。
	タクシー運転手	飲食店等の閉店が目立っている。
	タクシー運転手	病院への通院等でもタクシーを利用しないでバスや家族の送り迎えが目立っている。
	タクシー運転手	夜8時から10時頃にかけて、駅への家族のマイカーによる迎えの車両が多い。
	タクシー運転手	郊外に大型店舗が多く出店しており、商店街の小売店の閉店が多く見られる。
	ゴルフ場	客はプレー料金が安い方へ動いている傾向がある。また、コンペ等でゴルフ場は利用するが財布のヒモはかなり固い。
	パチンコ店	老人を対象とした商品など新しい業種が増えているように思われる。
住宅販売会社	減税に間に合わなくても、意外に家を建てようとして検討している人が多いのではないかとと思われる。	
建築設計事務所	チェーン店展開の業種が多くなってきている。	
企業関連	農業関係者	デフレの恩恵により消費が活況になってきているように感じる。
	製造業(食品)	不景気になれてしまい、それを脱皮する一歩を踏み出せない状況である。設備投資を例に挙げると、何々の設備投資をすればこれだけの売上増・効率化に結びつくという絵は描けるが、実現までには至っていない。
	製造業(食品)	取引先からのカレンダーや手帳の数が減少した。当社も来年度分からカレンダーを廃止する予定である。
	製造業(窯業・土石製品)	電機・精密機器の業種においてボーナスの支給額が大幅に伸びたようである。
	製造業(コンクリート製造業)	足利銀行破たんの影響が取引先に出てこないか懸念される。
	非製造業(建設業)	3,000万円以上の大型工事の受注はここ3・4年なく、営繕工事が依然として多い状態である。
	非製造業(建設業)	近くに工業団地があり工場の景気に大きく左右される。製造工場の多くは生産ラインを縮小しており、飲食店を含む消費が少なくなっている。
	非製造業(建設業)	お中元・お歳暮がこれまで届いていたところから、ここ2年届かなくなっている。
	非製造業(不動産業)	高額物件の購入状況が悪く、中高年の買い替えも少ない。しかし、若年層の購買意欲はある。
	非製造業(金融業)	多重債務者の年齢が老人へと移行している。
雇用関連	人材派遣業	顧客からの料金値下げの要求が厳しく、長年の取引きを顧みず、安い業者に発注する事業所も出てきている。
	求人広告	日用品は安い商品を購入するが、欲しい商品は上のランクの商品を見るようになってきた。
	公共職業安定所	12月の国内旅行を予約したが、予約がいっぱいでどこも10人程度のキャンセル待ちとなっている。
	学校就業関係者	これまでになかった縫製関係の企業で来年求人があるという情報がある。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	新聞等のマスメディアでは経済成長率の回復やボーナスの平均支給額のアップなどが騒がれているが、市内のハローワークでは連日大勢の失業者が見られ、ギャップを感じる。
	農産物直売所	日曜・祭日に他県ナンバーの車の来店が多く見られるようになった感じがする。
	専門スーパー	足利銀行の経営破たんにより、生活基盤や雇用の先行きに対する不安感が増大していることを実感する。栃木県内に混乱が広がれば、県西地域も大きく影響を受けることになる。
	ガソリンスタンド	家電販売店がリニューアルあるいは新規オープンしており、競争が激しくなっているようである。
	洋食食堂	リストラや経費削減等が一段落した感があり、以前よりも閉店する店が少なくなったように思われる。
	寿司店	価格の安さはもちろんのこと、質も重要になってきている。
	和食食堂	どの業態においても、良いところと悪いところで差がでてきている。
	一般食堂	工場や会社の寮などが売却され、住宅用地として分譲されている。
	旅行代理店	社員旅行は減少傾向にある。
	タクシー運転手	客から、足利銀行に対する国の保護政策について質問されたり、不満を述べられることがあった。必死な客が多い印象を受けた。
	タクシー運転手	景気の動向についてはタクシードライバーに聞くのが一番良く動向が分かるということで、客からよく景気の動向について質問がある。
	タクシー運転手	各飲食店には、マイクロバスが用意されているために送迎付きの飲食等が多く、また、一次会で帰宅する人も多い。さらに、運転代行業を利用する人が多いため、年末といってもバブルのころとは違い、タクシーを利用する人は少なくなっている。
	タクシー運転手	老人等通院する人の乗車が減少しているように思われる。
	ドライブイン	客の財布のヒモが固く、緩めるように頑張っているところである。
	ゴルフ場	若干価格の安いオンラインによる特別提携枠は早目に満員になる。未だに価格弾力性が高い。
	ゲームセンター	中小の店舗の閉鎖・撤退が増加してきている。
	レジャー施設	今年一年を振り返ると、イベント参加者・来場者ともに減少傾向であった。
	理・美容店	顧客の来店頻度が鈍くなり、低料金店へ相当数客が流れている。
	クリーニング店	若者の利用が少ない。
	住宅販売会社	住宅取得に対し、依然として客は慎重になっている。
建築設計事務所	大変忙しい業者とそうでないところが明確になってきている。	
企業関連	製造業（食品）	品質向上対策として、検査部門を強化する流れになってきている。
	製造業（印刷業）	足利銀行の優先株を購入した企業・個人が忘年会・新年会の予定をキャンセルしている。
	製造業（石材業）	よく利用する街では、客が入っている店と入っていない店と二極化している。客が求める事に依っていけば、やり方次第で景気の動向に左右されないと感じた。
	製造業（金属製品）	以前は機械等のセールスが来なかったが、最近来るようになってきた。
	製造業（輸送用機械）	ビジネスチャンスが見受けられるようになってきたが、思い切った投資ができない状況にある。
	非製造業（建設業）	足利銀行の影響が出てきており、借入が不安で計画倒れもある。
	非製造業（金融業）	市内商店街の土地が売れない。倉庫業の稼働率が上がってきている。
	非製造業（不動産業）	不動産売買の客は住宅ローン減税・不動産譲渡所得税など不動産に関わる税金についてよく知っており、それらの情報について敏感である。
	非製造業（広告業）	消費者のニーズに応えようとしている企業が多く見られるようになってきた。
	非製造業（コンサルタント業）	取引先は殆ど中小零細企業であるが、年末に行き詰まる場所が出てくるように感じている。
雇用関連	人材派遣業	食品関係は変化がないが、住宅関係が悪いように思われる。
	求人広告	前年と比べて企業の業務量は横這いもしくは増加傾向にあるが、単価が低いために利益率が上がらないところが多いようである。
	公共職業安定所	求人に関し、パート社員（8時間パート）が増加してきている。